

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

***1930年(昭和5年)のゴーチェ子午環北側コリメータ台上の自記温度計記録発見
(レプソルド子午儀室床下探検)**

アーカイブ新聞第989号からレプソルド子午儀室床下の探検で発見された様々な記録用紙について記事を書いている。今回は1930年(昭和5年)4月7日～9月25日の期間のゴーチェ子午環北側コリメータの台の上に置かれた自記記録温度計の気温データ24枚である。最初の記録紙は1930年4月7日から始まっているが、コリメータ台上に移されたのは4月9日である。また、最後の記録紙は1930年9月22日から始まっているが、9月26日から子午環地下室に移したとある。さらに7月21日から始まる記録紙が2枚あったが、7月23日から新たな記録紙に交換されていたので、この2枚は1枚に貼り付けた。表1がゴーチェ子午環北側コリメータ台上で記録されたものを整理したものである。

子午環北コリメータの場所							
年	月	開始日	有無	月	開始日	有無	メモ
1930	4	7	○	7	7	○	
		14	○		14	○	
		21	○		21	○	
		28	○		28	○	
	5	5	○	8	4	○	
		12	○		11	○	
		19	○		18	○	
		26	○		25	○	
	6	2	○				欠損
		9	○	9	8	○	
		16	○		15	○	
		23	○		22	○	
		30	○				

表1 1930年4月～9月のゴーチェ子午環室内のデータ表

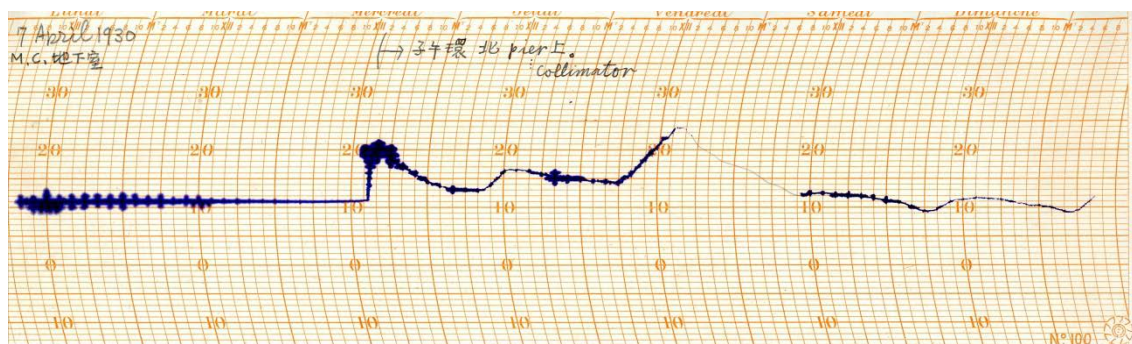


図1 1930年4月7日からの記録紙 コリメータ台上は4月9日から

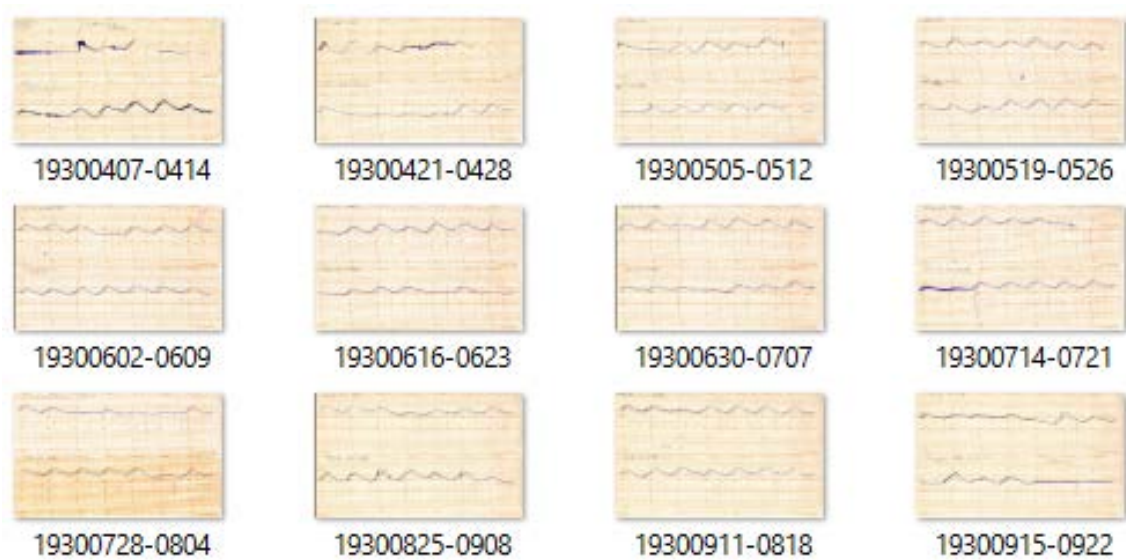


図1 1930年（昭和5年）4月～9月の記録紙24枚分のサムネイル

今回のゴーチェ子午環北コリメータ台上の気温をゴーチェ子午環室内の気温として、外の百葉箱の気温の1930年7月7日からの1週間分を比較してすると、ゴーチェ子午環室内の断熱効果を見ることが出来る。図2がゴーチェ子午環室内の気温、図3が外の百葉箱の気温である。確かに断熱効果は認められる。気温変化の様子はほぼ同じだが、最低気温は外気より約1度高く、最高気温は2~3度低いことがわかる。

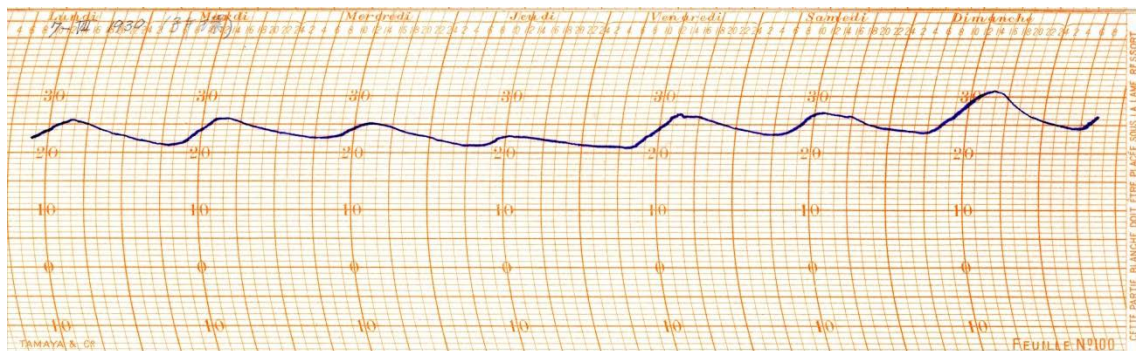


図2 1930年7月7日～ ゴーチェ子午環北コリメータ台状上の気温データ

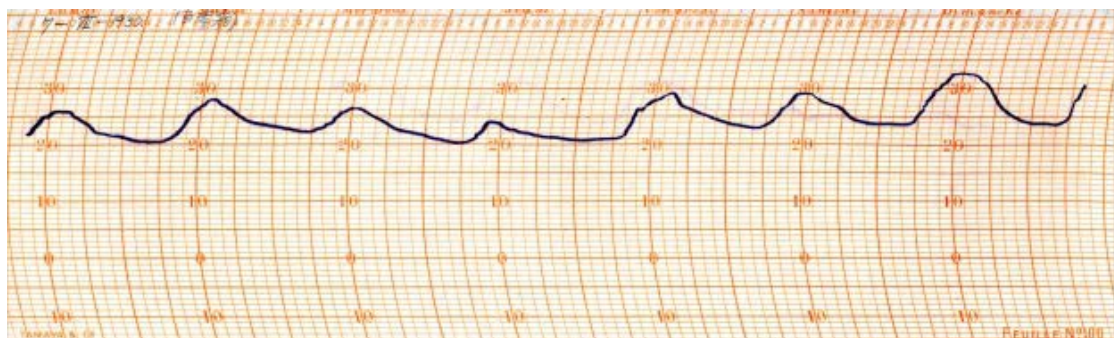


図3 1930年7月7日～ 百葉箱の気温データ

図4から、存在するデータを載せる。

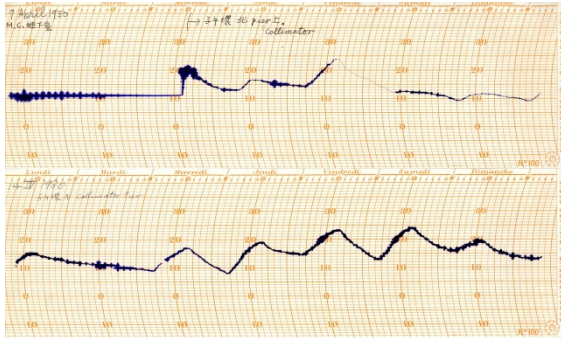


图 4 19300407-0414

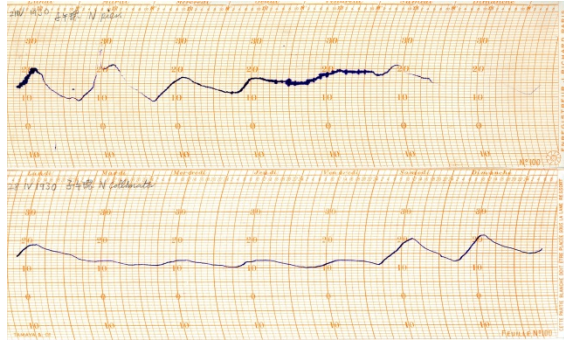


图 5 19300421-0428

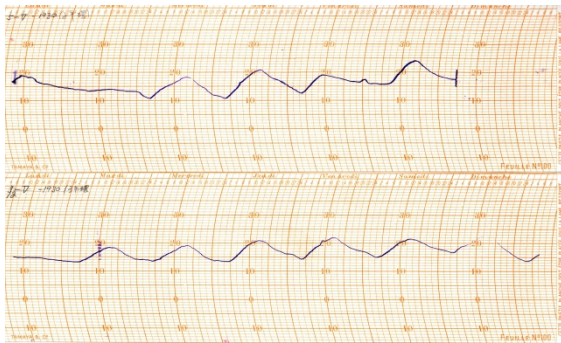


图 6 19300505-0512

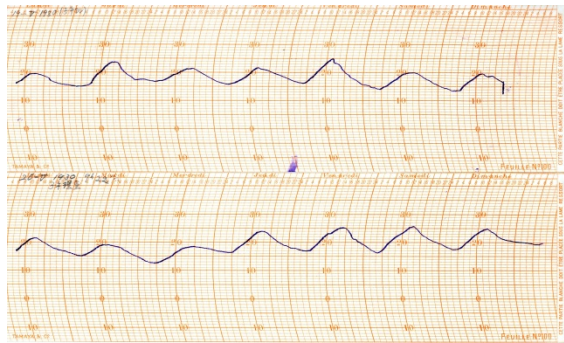


图 7 19300519-0526

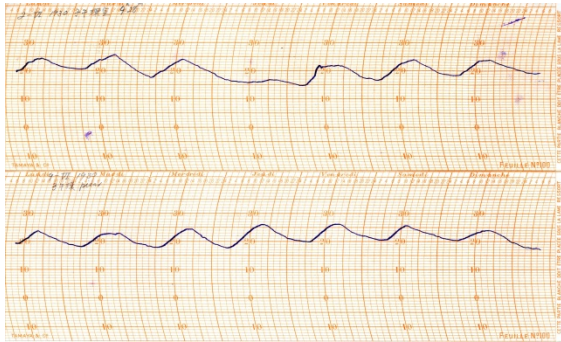


图 8 19300602-0609

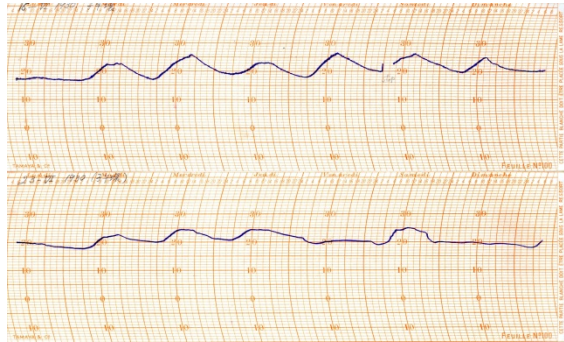


图 9 19300616-0623

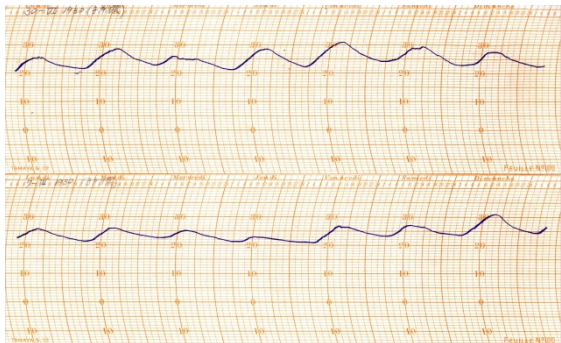


图 10 19300630-0707

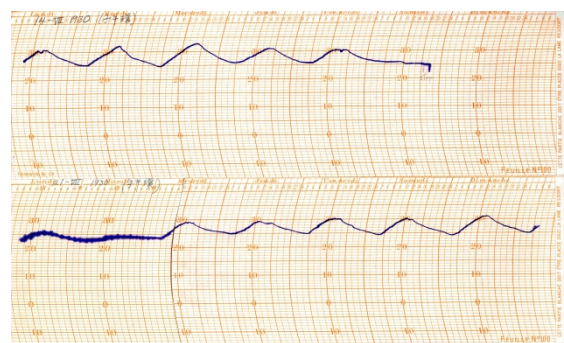


图 11 19300714-0721

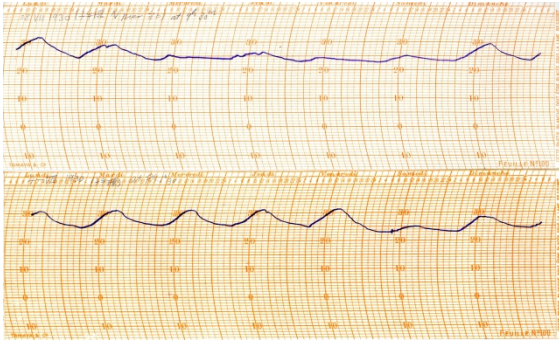


図 12 19300728-0804

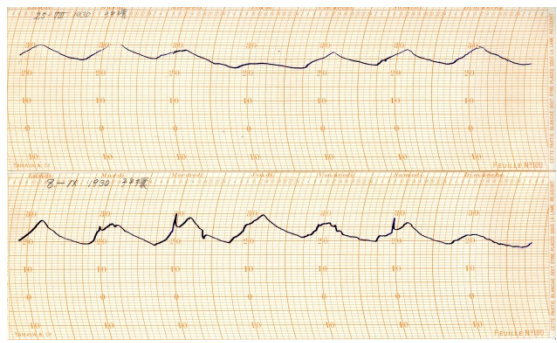


図 13 19300825-0908

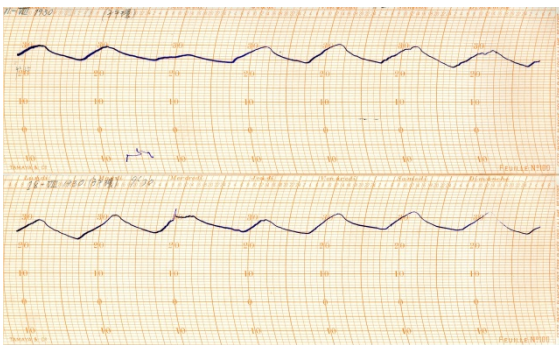


図 14 19300911-0818

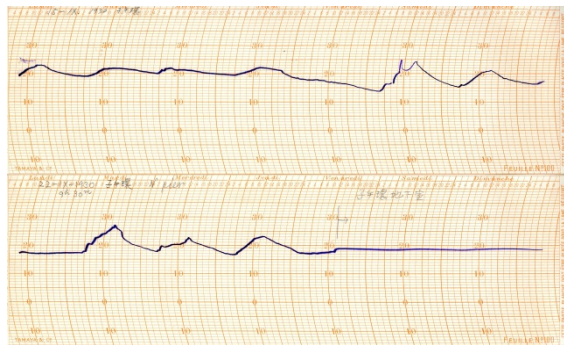


図 15 19300915-0922

これらのデータは、レプソルド子午儀室の床下に保管されていたとは言い難い状態であり、むしろ床下に捨てられたと言える状態であったが、子午儀、子午環の床下には深い水抜き井戸があり、そしてピアは非常に乾燥した砂のプールに立っているような状態なので90年近い年月を経ても無事だったと思われる。この水抜き井戸についても記事を書きたいと思っている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp